

評価と授業改善

目標と見取り方を授業前にそろえ、児童生徒の学びと授業の両方を改善します。

評価する対象	確認することと根拠の例
児童生徒の学習状況	本人の以前の姿と比べる。発言・作品・観察を組み合わせる。
教師の学習指導	活動の機会や支援は適切だったか。児童生徒の姿を根拠に考える。
学校の指導計画	学年間のつながりや時期・体制を点検し、次の計画に生かす。

評価の観点は事前に教員間で共有します。1回の自己評価や文章量だけで能力を判断せず、次の支援に役立てます。

目標・見取り・改善の設計シート

学習目標に合う見取りの観点を選び、授業改善のために使います。

確認する項目	記入欄（案内文は書き換えて使えます）
対象・教科等・単元・時期	
今回の目標と観察する行動	目標と評価の観点がつながるように書く。
授業前に確かめる姿	同じ問いへの回答、既存作品など。
授業中・授業後の根拠	いつ、誰が、何を記録するか。
見取った変化と必要な支援	本人の言葉と教師の解釈を分ける。
授業で変えること・担当・時期	活動の機会、問い、教材、時間などを見直す。

低学年や支援が必要な児童生徒には、絵・口頭・代筆などで参加できる方法を選びます。

前の自分と、今の自分

日付		年	組	名前	活動名
1 はじめは、 どう考えていたかな？			2 活動で心に残ったことは？ 何が起きた？		
3 今はどう考える？ 変わらなかったことも書こう。			4 次に試すことや、 助けてほしいことは？ いつ確かめる？		

よく見せるために書く必要はありません。ことば・絵・対話など、自分に合う方法で伝えられます。

振り返りシートの記入例

書き方の例です。本人の経験と言葉を大切に、対話に生かします。

1 はじめは、 どう考えていたかな？ 仕事と教科の学びは、 あまり関係ないと思っていた。	2 活動で心に残ったことは？ 何が起きた？ 店の人が、品物の数を 計算して確かめていた。
3 今はどう考える？ 変わらなかったことも書こう。 計算も仕事を支えると分かった。 まだ分からない使い方もある。	4 次に試すことや、 助けてほしいことは？ いつ確かめる？ 次の数学で、確かめながら計算。 1週間後に先生と振り返る。

前のページの白紙シートを使い、次にすることや、相談したいことまで一緒に考えられます。

06 の授業と振り返りの例

以下は架空の例です。学校の目標や児童生徒の実態に合わせて組み替えます。

校種・場面	目指す姿・使い方	児童生徒の言葉の例
小学校 町たんけん	地域の人々の役割を具体的に説明する	お店の人は、売る前に品物を確かめていた
中学校 職場体験の振り返り	観察した事実をもとに、学ぶ理由を考える	数量の確認で数学を使っていた。計算を確かめたい
高校 地域への提案	調べた根拠から提案を見直す	一つの意見で決めず、違う立場の声も調べる

中学校の架空例。授業前は「仕事に教科は関係ない」。授業後は「数量の確認で数学を使っていた」。先生は観察メモも照合し、学びと仕事のつながりへの気づきを捉えます。

**授業改善の例：体験前に、教科との接点を探す問いを加える。
教科担当と確認し、次回の事前学習で試す。**

10 分の校内研修と参考資料

既存の学年会などで使えます。最後に、授業で試すことと確認日を 1 つ決めます。

2 分：匿名にした記述・作品を 1 つ選び、学習目標を確認する。

5 分：事実と解釈を分け、別の見取り方や必要な支援を話す。

3 分：授業で変えること、担当、確かめる時期を決める。

文部科学省の参考資料

中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023 年 3 月）第 2 章 pp.51-54

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

小学校キャリア教育の手引き（2022 年 3 月）第 2 章 pp.57-61

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_01951.html

本資料は手引き等を参考にした吉田正之のオリジナル資料です。文部科学省の公式様式ではありません。
学校内の授業・研修に印刷・編集して使えます。ページ番号は冊子の表記です。

町たんけん後の学びを確かめる 45 分

モデル案：小2・生活科の事後学習。見聞きした事実から、地域の人の役割を考えます。

ねらい：地域の人は何をしていたか、見聞きした場面を基に伝える。
準備：既存の探検メモ・絵・写真。個人情報や写真の扱いは学校で確認し、使える記録を選ぶ。

時間	子どもが考え、行うこと	先生の問い・関わり
5 分	探検前の予想と、今のメモを見返す。	『前はどう思っていた？』を確かめる。
10 分	見た・聞いた場面を一つ選び、絵や言葉で表す。	『誰が、何をしていた？』と具体化する。
10 分	ペアなどで伝え、気になる点を聞く。	個別に話す・指差す方法も選べるようにする。
10 分	見聞きした事実と、自分の考えを分ける。	『どこを見て、そう思った？』と聞く。
10 分	分かった役割と、残った疑問を整理する。	次の生活科や学級活動で確かめる方法を考える。

架空例：『店の人が箱の数を数えた』は事実、『品物を間違えないためかな』は本人の考え。記述・絵・観察を合わせ、教師の問いや資料の示し方も改善します。

町たんけんの見取りと授業改善

この授業のねらいに沿った3つの姿の例です。学校で調整し、次の支援を考えるために使います。

見る視点	今、確かめられた姿の例	先生の次の支援
場面を思い出す	写真や問いを手掛かりに、店の人の動きを選ぶ。	見聞きした場面と一緒に確かめ、口頭・絵も使う。
事実を伝える	『品物の数を数えていた』と具体的に伝える。	相手や場面も尋ね、本人の気づきを確認する。
役割を考える	『品物を確かめる仕事かな』と事実に基づき考える。	考えを確認する資料や、次に聞く機会を相談する。
教師の改善記録	記録した事実： 別の見取りの可能性：	変える問い・教材： 担当・確かめる時期：

未記入だけで未達とせず、活動中の様子や別の表現も確かめます。この表は独自の見取り例です。児童の学習、教師の指導、学校の指導計画を分けて振り返ります。